

## 研究テーマ：レジ袋減量化への取組の日中比較

## レジ袋有料化政策制定の経緯

中国はプラスチックを生産・消費する大国で、経済の急速発展につれて、消費者に快適・便利を提供するレジ袋は中国人の日常生活に不可欠な消耗品として大量使用している。国家発展・改革委員会（発改委）によると、中国本土で使用されているレジ袋は、スーパーで年間 40 万トン、その他の商店などで 120 万トンで計 160 万トン。スーパーだけでも年間 50 億元をレジ袋のために費やしている<sup>1</sup>。中国プラスチック協会プラスチックリサイクル専門委員会の董金獅副会長によると、中国人の生活習慣として、自由市場で、野菜を買う時、毎日 10 億枚のレジ袋を使い、ほかの買い物に使われるビニール袋は 20 億枚以上に上っているという<sup>2</sup>。また、レジ袋は石油から作られるプラスチック製品で、1 トンを生産するのに、石油約 3 トンを要する<sup>3</sup>ため、石油の大量浪費される。使い終わったレジ袋のほとんどがそのまま廃棄されるから、埋められるごみのうち、ビニールやプラスチックは 3-5%だが、大部分はレジ袋である。中国においては、生活ごみが大部分はリサイクルができず堆肥し処分されるから、土壌に混ざると農作物の生育を阻害し、誤飲による動物の死亡も相次いでいる<sup>4</sup>。便利な生活を提供する上で、いろいろな問題と課題を生じた。こんな厳しい事態を受けて、1999 年から、中国では、超薄レジ袋への制限も始まった。北京、天津、江蘇、遼連など 10 カ都市のある大手スーパーで試行することがあったが、しかしながら、政策や取り組みは局地で行われていたため、効果があまり明らかではなかった。2007 年末、国務院弁公庁が、エネルギーの節約と環境保護の観点から、レジ袋の使用を制限する規制を導入し、〈国務院弁公庁レジ袋の生産・販売・使用の制限に関する通達〉発布され、2008 年 1 月に、国家発展・改革委員会（発改委）は科学技術部といった 12 部門と共同研究し、試行した地方都市の経験を踏まえ、市民の意見をまとめてから、レジ袋有料化に関する具体的な政策という、「商品小売場所の買物用ビニール袋の有償使用管理弁法」を起草し、発布された。その後、国家標準委員会〈レジ袋の環境、安全と標示通用技術要求〉、〈レジ袋〉、〈レジ袋の快速検測方法と評価〉三つの国家標準が発布された。2008 年 6 月 1 日から、正式に実施された。

（背景資料を探す時に、中国におけるレジ袋に対する規制が先進的な地域を出てきた。国家よりずいぶん早めに、厳しい政策が行われた。「シャングリラ」と呼ばれる雲南省迪慶（ディチェン）チベット族自治州においては、2001 年から、レジ袋が全面的に禁止し、中国では初めてレジ袋の使用禁止の地方になった。）

「シャングリラ」とは、英国の著名作家ジェームス・ヒルトンが 1933 年に発表した小説「失われた地平線」の中で描いた恒久、平和、安らぎの地方である。同小説の舞台とされる雲南省迪慶西藏（チベット）族自治州の香格里拉（シャングリラ）県には、森林に覆われた湖、雪山に囲まれた草原が広がる。1997 年、雲南省人民政府はヒルトンの小説に

<sup>1</sup> 中国ニュースはおもしろい 『中国本土で使用されているレジ袋』 <http://favre.chineseinfo.info/?p=67> (2011/1/11 閲覧)

<sup>2</sup> 「中国、6 月 1 日からレジ袋の無料提供を全面禁止」  
[http://japanese.china.org.cn/business/txt/2008-01/09/content\\_9506817.htm](http://japanese.china.org.cn/business/txt/2008-01/09/content_9506817.htm) (2011/1/11 閲覧)

<sup>3</sup> 中国ニュースはおもしろい 『中国本土で使用されているレジ袋』 <http://favre.chineseinfo.info/?p=67> (2011/1/11 閲覧)

<sup>4</sup> 中国ニュースはおもしろい 『中国本土で使用されているレジ袋』 <http://favre.chineseinfo.info/?p=67> (2011/1/11 閲覧)

書かれた理想郷「シャングリラ」が、雲南省迪慶西蔵族自治州に当たると世界に宣言し、有名な観光地になった。しかしながら、観光業と経済の発展に伴うレジ袋が環境への影響が広がって、シャングリラの生態や美しい景色が破壊した。レジ袋は、分解し、土に返ることなく自然界に残りやすい。散乱するレジ袋は木や河川などに残れ、旅行者へ悪い印象を与えた。また、河川の水質が汚染し、高原動物のヤクもおびやかされた。シャングリラ県都市建設局環境衛生部門の副部長の話によると、十年前のシャングリラでは、毎日処分するごみの中で、白色汚染ごみ（レジ袋、白色弁当箱）は60%-80%を占めている<sup>5</sup>。こうした事態を受けて、1999年から、シャングリラ環境保護局をはじめ、各政府機関の職員や市民を呼びかけ、散乱するレジ袋を拾い始めた。その後、シャングリラ環境保護局が白色汚染を宣伝すると同時に、レジ袋の代わり品として、1万個エコ袋を発注し、大きな自由市場や、大型スーパーに無料に出した。2001年4月6日、シャングリラ県人民政府が『中甸（シャングリラ）県レジ袋の販売、提供、使用禁止に関する規定』（「禁白令」と言われる。）を可決した。同規定は、2001年7月1日から、シャングリラ県内ではいずれの会社や個人がレジ袋の販売、提供、使用を禁止する。この規定を発布した後、シャングリラ県政府は、工商、旅行、都市建設、環境保護といった10何部門から職員を選んで、“禁白”総合執法チームを成立した。執法チームはまず、レジ袋卸売り業者から、全部のレジ袋を有料回収し、小売り業者にレジ袋の販売が禁止に要求した。その後、都市部では毎日レジ袋の使用状況に調査している。市民や店などがレジ袋を使うことを見つけて、すぐ、レジ袋を没収し、或は罰金する。以上のように監督すると同時に、いろいろ宣伝活動も行われていた。チラシ、新聞、メディアや宣伝車など方法を通じて、市民を呼びかける。また、チームのメンバーは一戸一戸訪問し、「白色汚染」の影響を宣伝する。こうした県政府の活動を通して、全県内では「禁白」の意識が高まってきた。市民の相互監督ネットワークも形成した。

## 参考文献

- ・ 毛 达『限塑：远未完成的任务』『中国环境发展报告』（2009）pp.219-228
- ・ 足立 幸男・森脇 俊雅編著「公共政策学」ミネルヴァ書房
- ・ 平成 18-20 年度廃棄物処理など科学研究費補助金総合研究報告書 『中国におけるは廃棄物資源管理能力向上に関する政策研究－地域循環型システム実現のための地方における廃棄物資源管理の実効性と地域社会浸透－』 2009 年
- ・ 『香格里拉“禁白”十年路：从拾塑料袋开始』云南日报网  
<http://cd.qq.com/a/20080508/000192.htm> (2011/1/11 閲覧)

<sup>5</sup> 云南日报网『香格里拉“禁白”十年路：从拾塑料袋开始』  
<http://cd.qq.com/a/20080508/000192.htm> (2011/1/11 閲覧)